■赤松要　　**経済学者。雁行形態論を発明，日本人学者理論で最も世界的になる一方，国立市文教地区指定に貢献。**
あかまつかなめ
白馬会・・・1896＝　　福岡県久留米市京町で，旧藩主柔道指南の米穀商赤松虎之進の長男に生まれる。母カズ子は学者の家柄。

日露戦争終・1905＝ **9歳：**

韓国併合・・1910＝14歳：**_久留米市立久留米商業学校に入学，**

_家業が衰退して困窮するなか，苦学し，

第一次大戦始1914**＝18歳：**
21ヶ条要求・1915＝19歳：**_成績二番で卒業，神戸高等商業学校に無試験入学。**

_旧藩主からの育英資金を得，英文翻訳のアルバイトで補い，
本格政党内閣1918＝22歳：**_学校創立15周年記念祭歌に応募して当選したり，宝塚歌劇に通うなどする一方，**
ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919＝23歳：**_大学昇格運動の学生代表として，文部大臣に陳情するため，初めて上京した後，卒業。母が就職願うも，学問の道を志し，東京高等商業学校専攻部経済科に入学。福田徳三のもとで，研究を始める。**
大暴落・・・1920＝24歳：**_福田に認められ，{国民経済雑誌}に最初の論文が掲載。肺尖を病んで喀血，運動不足による胃腸障害も起こって，健康体操の道場に通い始め，終生の健康法となる。神戸に先駆け，東京商科大学となった後，**
原敬首相暗殺1921＝25歳：**_マルクス経済学批判の卒業論文を書き上げて，卒業し，名古屋高等商業学校に講師として着任。**
水平社結成・1922＝26歳：***教授に昇任。演劇演出創作にのめり込みながらも，学校長渡辺龍聖やイギリス人教師と出会って飛躍し，**
関東大震災・1923**＝27歳：**腸チフスに罹るも回復。**_特に税関倉庫研究のため，イギリス・ドイツ・アメリカ留学を命じられ，**
護憲三派圧勝1924＝28歳：ドイツのハイデルベルク大学で哲学を研究。H・リッケルトとH・グロックナーのゼミナールに出席。
治安維持法・1925＝29歳：福田徳三夫妻をドイツに迎え，宮田喜代蔵・梅田政勝と，ミュンヘン近郊に老ブレンターノを訪問。
円本時代始・1926＝30歳：**_フランスに滞在，憧れの仮面舞踏会に招かれるなどした後，イギリス経て，アメリカのハーバード大学のビジネス・スクールや経済研究所を視察し，帰国。校長に調査研究機関設置を進言し，産業調査室設置。**
金融恐慌・・1927＝31歳：**_ヘーゲルの立場から，左右田経済哲学批判の論文を発表。まもなく，論敵の左右田喜一郎が死去。**
共産党事件・1928＝32歳：結婚し，別府・瀬戸内海をて新婚旅行。この年，弟茂が名古屋高等工業学校を卒業し，日立造船に就職。
海軍軍縮条約1930＝34歳：長男が誕生。師の福田徳三が死去。
満州事変・・1931＝35歳：**_ヘーゲル死後百年祭を記念し，最初の著書「ヘーゲル哲学と経済科学」出版。**
五一五事件・1932**＝36歳：**弟正章が名古屋高商に入学し，同居。この年，三菱経済研究所が発足し，アメリカ流経済予測を始める。
国際連盟脱退1933＝37歳：長女が誕生。
帝人疑獄事件1934＝38歳：母が死去。
芥川直木賞始1935＝39歳：父・叔母と同居始。弟正章が名古屋高商卒業し日本銀行に就職。***雁行形態論の嚆矢となる論文を発表。**
日中戦争始・1937＝41歳：**_「産業統制論」で中小企業組合へのアンケート調査を取り入れて注目される。。**
健保+総動員 1938＝42歳：父が脳溢血のため急逝。
第二次大戦始1939＝43歳：**_東京商科大学に教授として着任。阿佐谷に住居。**
大政翼賛会・1940＝44歳：**_陸軍参謀本部の秋丸次朗による機関に協力し，日本・英米独ソの戦争遂行能力の比較調査。大学に新設の東亜経済研究所の研究部長に就任し，満州・華北調査。国立に転居。日本貿易研究会を主宰し，{日本貿易年報}の刊行に関与。山田篤太郎とともに，日本経済政策学会を創立。**
日米開戦・・1941**＝45歳：_秋丸機関報告書提出。赤松編輯「新世界経済年報」が商工行政社より四季報として刊行始まる。**
・・・・・・1942＝46歳：師の坂西由蔵が逝去。**_高瀬荘太郎学長の命により，東亜経済研究所所員を中核とする四十数名を率い，南方総軍軍政総監部に属して，南方の民族経済資源の調査のため，シンガポールに赴く。**
創価学会検挙1943＝47歳：**_大学教授のまま，南方総軍軍政総監部の調査部長，少将から中将待遇。小島清と共著「世界経済と技術」，**
年金+総武装 1944＝48歳：***「経済新秩序の形成原理」で雁行形態論確立し，クアラルンプールで，経済学博士号を受けたことを知る。**
敗戦・・・・1945＝49歳：**_調査どころでなくなると，軍政監部に，マライ人の戦後の独立を約束すべきことを進言。敗戦で，調査報告書類一切を失い，イギリス軍に収容され，無人島だったレンバン島に移され，辛酸をなめる、**
新憲法公布・1946＝50歳：シンガポールより帰還し，実家に到着。教育職員審査委員会にて適格の判定を受け，
極東裁判決・1948＝52歳：**_公職適否審査会で追放を免れる。ケインズ理論批判する供給乗数理論の論文を寄稿し，論争となる。**
三大事件・・1949＝53歳：東京女子大学・東京経済大学・成城大学などで講師を務める。**_名和統一と国際価値論争を行う。**
朝鮮戦争始・1950**＝54歳：_中山伊知郎の懇請により，中央賃金審議会会長となる。単独講和早期締結を主張し，果敢に論争。矢内原忠雄らと，国際経済学会を創立。**
独立回復・・1951＝55歳：東京経済大学での日本の自衛力問題の質問会で応答。**_国立町議会に文教地区設定の決議を通過させ，**
ﾒｰﾃﾞｰ事件・ 1952＝56歳：**_都議会を経て，国立文教地区が施行されるに至る。**
ﾃﾚﾋﾞ放送始・1953＝57歳：一橋大学経済学部長となる。明治大学大学院講師。
自衛隊発足・1954＝58歳：**_最低賃金に関する答申を労働大臣に提出し，中央賃金審議会会長を辞任。国際経済学会理事長に選任され，学術会議より欧州派遣。**
55年体制始・1955＝59歳：**_長女が東京女子大学の学友会誌に「父への手紙」を書き，要が朝日新聞紙上に公開の返事を寄せて，話題になる。一橋大学経済学部長退任。長男が一橋大学大学院学生のまま国立町議員に当選。**
国連加盟・・1956＝60歳：久武雅夫の大学院数学ゼミを聴講し，数学の森を見る。ブリヂストンタイヤの創立二五周年記念祝賀会に招待され，郷里久留米に帰る。生家のあとに建てられたブリヂストンの講堂にて講演。
ｲﾝｽﾀﾝﾄﾗｰﾒﾝ・1958＝62歳：還暦記念論集「経済政策と国際貿易」(春秋社)を受ける。自作年譜を付す。
美智子妃・・1959**＝63歳：**
安保闘争・・1960＝64歳：**_一橋大学を定年退職し，名誉教授となる。明治大学に移り，経済学専攻博士課程の創設に腐心。**
ｲﾀｲｲﾀｲ病始・1961＝65歳：歌集「わが旅路」を編み，還暦記念論集の協力者に贈る。**_{世界経済雑誌}に英語論文が掲載される。**
全国総合計画1962＝66歳：**_国際日本協会が世界経済研究協会と改称され，理事長に推される。**
東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ 1964＝68歳：世界経済研究協会が社団法人の認可を受ける。バグワッティの展望論文で，輸入乗数理論が紹介される。
霞ヶ関ﾋﾞﾙ・ 1968**＝72歳：**拓殖大学に移る。海外事情研究所所長・大学院院長として，大学院の拡充に努める。
大阪万博・・1970＝74歳：**_国際経済学会理事長を退任。**
沖縄返還・・1972＝76歳：***世界経済研究協会編「1985年の世界貿易」全6巻刊行開始。第1巻巻頭に「日本産業発展の雁行形態」寄稿し，**
石油ショック1973＝77歳：妻が死去。
角栄金脈辞任1974＝78歳：脳溢血のため，**_没した。**

評伝日本の経済思想「赤松要」，